

平成30年度 自己評価表の公表

《集計表》

※こちらの自己評価表は平成30年11月末時点での全職員を対象とした調査の集計結果です。

		チェック項目	取組状況・改善目標	はい	どちらともいえない	いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	法令上、適切ではありますが、活動的な子どもや医療ケアの必要な子どもが多い日は手狭感はあるため、整理整頓等はきちんとし、導線の確保を行って安全に努めていく。		8	5
	2	職員の配置数は適切であるか	法令上、適切な配置数で運営していますが、その日の子どもの状況に応じ、不足感がある日はあるため、今後も安全等に十分に配慮した配置を行っていく。	9	4	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	入口や玄関口はバリアフリー対策は行っていますが、建物の構造上、対策できていない箇所はありますが、その場合は職員が介助し、転倒・怪我がない様に十分に配慮しています。		7	6
業務改善	4	業務改善を進める為のPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	月に一度の全職員対象のミーティングで周知をし、参加できなかった職員には送りノートに記載して見てもらうようにしている。	2	8	3
	5	保護者向け評価表、アンケートなどを利用して保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	保護者毎に個別に連絡ノートやHAGシステムを利用して保護者に意見を把握するようにしている。	4	5	4
	6	この自己評価の結果を、ホームページ等で公開しているか	今までは公開はしていなかったが、今回よりHPIにて公開する。	1	6	6
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者による外部評価は行っていない。今後は検討していきたい。	1	3	9
	8	職員の資質向上のため、研修の機会を確保しているか	外部研修は案内を回覧して希望者には積極的に参加してもらっている。社内では月1回のミーティング内で情報の周知を行っているが、内部研修も今後は定期的開催していきたい。	5	7	1
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後デイサービス計画を作成しているか	利用開始の際は必ずアセスメントを実施している。今後も必要性のある子どもは頻度を増やし、個別支援計画に反映させていきたい。	7	6	
	10	子ども適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	標準化されたアセスメントツールはあり、アセスメント・個別計画・モニタリングと一連の流れは把握できるようにできているが、全職員がツールを使用できないため、その点を改善していきたい。	6	7	
	11	活動プログラムの立案を必要に応じてチームもしくは複数名の職員で行っているか	常勤職員で活動プログラムの立案を行っている。その結果を、月1回のミーティング内で公表して、広く意見を取り入れるようにしている。	2	5	6
	12	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	なるべく固定化されないように、個別計画の更新時にその都度見直しを行い、症状や状況に応じて新しく取り入れられるプログラムは積極的に採用して活動プログラムに活かしていくようにしたい。	1	8	4
	13	平日、休日、長期休暇の応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	子どものリズムを崩さないように特性に応じて課題を決めているため、現時点では平日・休日・長期等を明確に分けて課題を設定していない。今後は子どもたちの対応力を身に付けるためにもきめ細かに設定は必要であると思う。	5	4	4
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を便宜組み合わせ放課後デイサービス計画を作成しているか	集団活動を苦手としている子どもに対して少しでも集団生活ができるようにするプログラムを今後は取り組んでいかなければならない。	1	8	2
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援内容や役割分担について確認しているか	送迎開始前に当日勤務の職員で申し送り及び連絡事項の確認を行っている。その日の状況を判断して、送迎や役割分担の変更等を当日のリーダーのもと、臨機応変に対応できるようにしている。シフト上、その時間にはいない職員には、内容や変更点を当日のリーダーより報告してもらう。	8	2	3
	16	支援終了後職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	シフト上、当日勤務者の全員が参加することは難しいが、終業時にいる職員で終礼を行い、当日の問題等・気づいた点の抽出を行っている。参加していない職員には送りノートに記載して閲覧してもらうようにしている。	8	2	1
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	支援中は気づいた点がある時は記入できるようにして、それを取りまとめる形で一日の業務日誌を完成させている。その分は勤務していなかった職員もいつでも閲覧できるようにしている。	10	3	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	モニタリングは6ヶ月に1回行っている。体調や行動の変化が著しい子どもにかんしては慎重にモニタリングを行い、その状況に応じて個別支援計画の見直し・変更の必要性を判断している。	7	6	

	19	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせ て支援を行っているか	厚生労働省のガイドラインに示されている基本活動に沿いつつ活動プログラムを作成するように努めている。	4	9	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	事業所の方には、事前に日取りの相談等をして頂き、最も相応しい者が参画できるように配慮して頂いている。	11	2	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	学校に送迎に行った際に、出来るだけ先生と話をする時間を作り、情報共有をしている。あとは保護者及び生徒を通じて配布物等でお知らせ頂いている。	10	3	
	22	医療的ケアが必要な子供を受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	主治医等と直接話をしたりはしていないが、保護者より事前に既往症や服用薬の情報を頂いている。急変時には、すぐに連絡できるように体制は整えている。	8	5	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	利用開始前に開催される支援会議等で情報を共有している。相互理解を深めるために子ども・保護者はもちろん各関係機関に施設見学をしてもらっている。	4	7	2
	24	学校を卒業し、放課後デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	子どもが卒業して障害福祉サービス事業所に移行する際には、移行先がスムーズに支援体制に入れるように、依頼のあることに関しては、すみやかに情報提供をしている。	6	7	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	子どもの状況に応じて必要な場合は助言等を頂いている。研修等も、案内を頂き可能な限り出席できるようにしている。	5	5	3
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子供と問活動する機会があるか	同法人が運営するサニーサイドアップ北浜とは、年に何度か合同にイベント等を行い、交流を図っている。しかし、児童クラブや児童館、他法人の運営するデイサービスとは現時点では交流を図れていない。今後は積極的に行うようにしていきたい。		4	9
	27	地域自立支援協議会等へ積極的に参加しているか	別府市の子ども支援部会には、月1度の定例会で情報共有や研修会に参加している。	3	5	5
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	利用児には必ず連絡ノート及びツールでの報告を行っている。送迎時には、当日の様子や変化等の話をするように心がけている。今後もそのような形で保護者の方と連携を深めて、共通理解をしていきたい。	8	4	1
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか	ペアレントトレーニング等の本格的な支援は出来ていない。送迎時等で、話をする中で	1	6	6
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担額等について丁寧な説明を行っているか	利用開始前に、利用規約・運営規定・支援方針・利用者負担額等を契約書及び重要事項説明書を交えて説明を丁寧に行っている。問い合わせ頂いた内容には、その都度送迎時等に直接説明するようにしている。	9	2	2
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	今までは保護者同士が交流をはかる機会は年に1~2回イベントで行うのみだったため、今後は保護者会等の開催を含め連携をはかる機会を作していきたい。	2	4	7
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	苦情があった場合には、早急に対応して謝罪や説明に直接伺って行うようにしている。再発防止の為、ヒヤリハット等に記載し職員全員に周知している。	8	5	
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	会報(リフライ通信)は月に1度発行し、保護者に配布している。今後は、内容を精査して保護者の知りたい情報をタイムリーに掲載できるようにしていきたい。	9	3	1
	34	個人情報に十分注意しているか	個人情報の分かる文書は職員以外が見れないように保管している。廃棄時はシュレッターを使用して十分に注意している。HPや会報に写真を掲載する場合があるため、写真等個人情報掲載承諾書を頂いて十分に配慮している。	8	4	1
	35	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	障害のある方に対しては、ゆっくりと分かりやすく話したり、耳元で大きな声で話をする等の、意思疎通や情報伝達が上手くできるように心掛けている。	7	6	
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	事業所の行事に地域住民を招待したことは今まではない。こちらが地域のイベントに参加したこともないため、今後は積極的参加していく。	1	2	10
	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症マニュアル・感染症対応マニュアル等は完備している。保護者には周知していない。今後は支援会議等の席で説明できるようにしたい。		8	5

非常時等の対応	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	定期的な避難訓練は実施していない。今後は子どもたちと一緒に行いたい。特に医療ケア(車椅子)の子どもの避難経路を明確にさせて行う。
	39	虐待を防止する為、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	外部での研修会がある時は回覧し、参加をしている。情報で周知が必要な事例と考えられる場合はミーティング等で報告している。今後は全員が参加できるように社内での研修会を検討していきたい。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うのかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、支援計画に記載しているか	医療ケアの子どももいるため、身体拘束の必要があるため、虐待防止上必要とされる身体拘束の3原則を全職員に周知して取り組みたい。
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	基本は、保護者の申告又は相談事業所からの情報提供をもとに対応している。
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハットはその都度当事者が作成して職員全員に回覧するようにしている。特に十分に注意が必要と思われる事例は毎月1回開催される職員ミーティングの場で発表し全員で対策や再発防止を話し合っている。

	6	7
5	5	3
1	7	5
7	5	1
10	2	1